

『30年後の世界の海は？』

気候変動，社会平等そして海と水産資源の未来

今，二酸化炭素排出の影響により海洋の環境特性，特に海水温，酸性度および酸素濃度は世界規模で前例のない変化を示している。海洋の環境特性の変化は，プランクトンから大型魚まで海の生物学的生産力に影響を与える。一方で，社会格差の広がりや，貧困の増大そして食料安全保障などの社会的課題は一向に解決の兆しを見せず沿岸域の生活は，途上国を含め益々厳しくなっている。世界の環境変化とともに社会経済変化が海にどのような影響を与えているのか？ SDGs（持続可能な開発目標）など国際的な政策は，果たして効果があるのだろうか？ 世界の最新の科学的知見と国連などの政策的な動きを，17の国際研究機関が連携した世界的な海洋研究ネットワークであるネレウスプログラムの研究成果をもとに，統括責任者のワシントン大学助教授 太田義孝氏が緊急報告し，日本「里海」の権威とともに「未来の海の危機と可能性」について議論する。

中学生，高校生，大学生諸君！！ 共に語らい，あなた達の時代を共に考えよう。

日時：2018年8月24日（金）14：00～17：00

場所：日生町漁業協同組合2F 多目的集会室（参加費無料）

岡山県備前市日生町日生801-4

主催：NPO 里海づくり研究会議・（公財）おかやま環境ネットワーク

参加者：国際学生ボランティア協会，岡山学芸館高校，備前市立日生中学校 ほか

《基調講演》



太田義孝氏：

ワシントン大学 Research Assistant Professor. 専門は社会人類学，海洋管理に関わる公共政策。世界各地の海で現地調査と資源管理の学際的研究に従事。

“海の未来”を予測するネレウスプログラムの創立メンバーであり，自然科学と社会科学をつなぐ政策ディレクターとしてプログラムを統括する。



《コメンテーター》

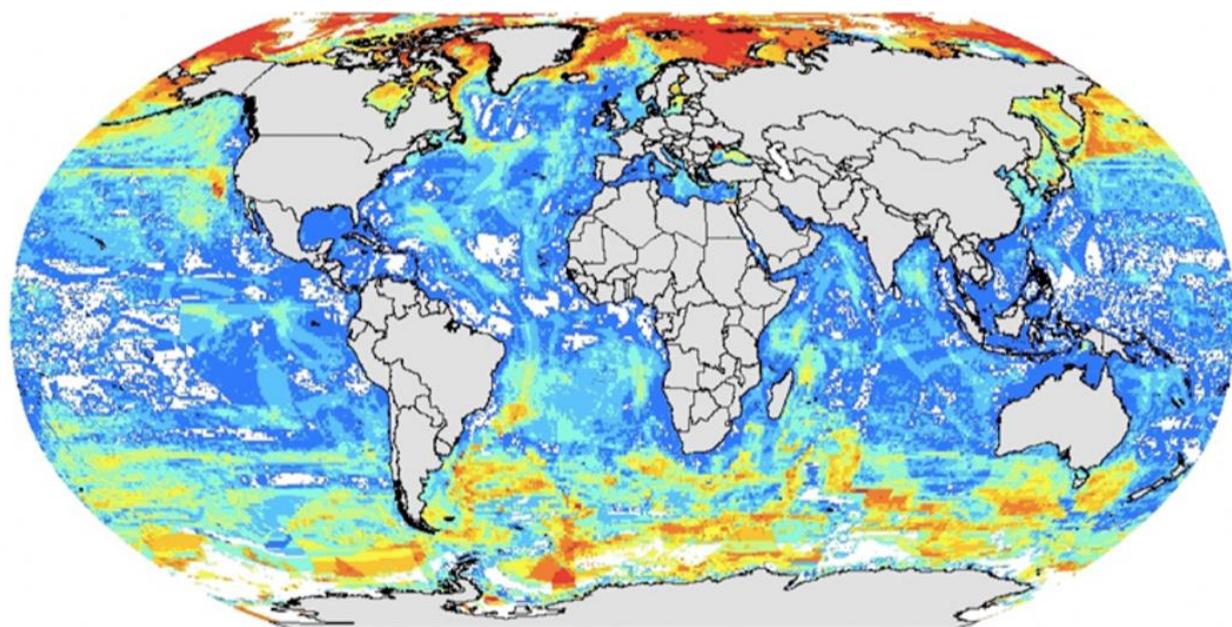


松田治氏：NPO 里海づくり研究会議理事長，広島大学名誉教授，文科省東北マリンサイエンス拠点委員会主査，国際エメックスセンター副理事長。水圏環境学，沿岸環境管理論の専門家

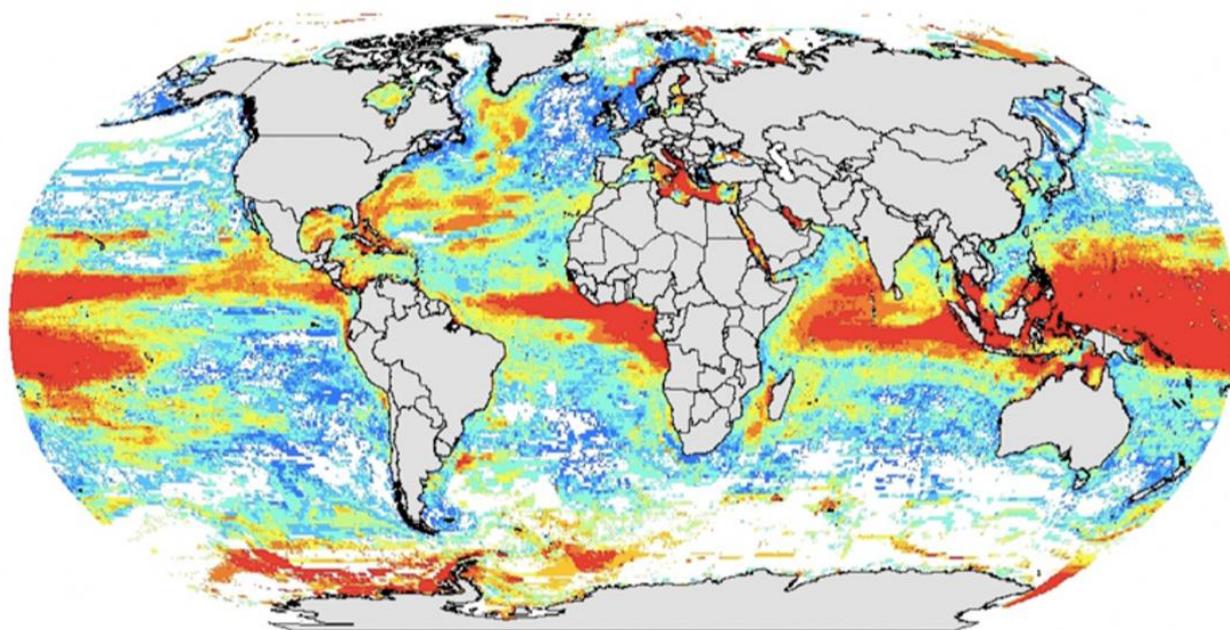
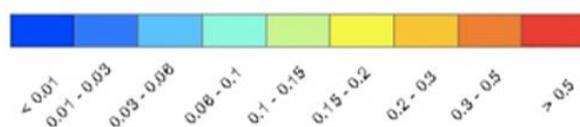


柳哲雄氏：NPO 里海づくり研究会議副理事長，九州大学名誉教授，“里海”という言葉と概念の生みの親，里海づくりに世界各地を奔走中。沿岸海洋学，気象・海洋物理の専門家

《司会進行》田中文裕氏：NPO 里海づくり研究会議 理事・事務局長



Rate of species invasion



Rate of local extinction



気候変動による海洋環境の変化から魚資源の分布が変わる。上記の図は、科学的な予測によって2050年までに新たな魚種が侵入する海域そして元来の魚種が絶滅する海域を示している。(Source: Jones and Cheung 2015)